

科学研究費補助金研究成果報告書

平成24年6月25日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2010

課題番号：21790588

研究課題名(和文) アラル海周辺地域における持続可能な包括的学校保健プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of sustainable comprehensive school health program in Aral Sea region

研究代表者

扇原 淳 (OGIHARA ATSUSHI)

早稲田大学・人間科学学術院・准教授

研究者番号：20329072

研究成果の概要(和文)：

カザフスタン共和国アラル海周辺地域における学校保健プログラム開発のための第一歩として、学校保健プログラムの中心である学校健康教育の現状について把握するために、学校健康教育に関する教科の開発の動向とその課題を明らかにすることを目的とした。

現行の学校健康教育教科 Валеология Программа (Алматы,2005), 新しく開発された学校健康教育教科 Здоровье и жизненные навыки(2007), 同国における学習指導要領にあたる Государственный общеобязательный стандарт среднего общего образования Республики Казахстан(Алматы,2002)等の分析に加え、教育科学省及び保健省関係者にインタビューを行った。結果としては以下の5点が明らかになった。1) カザフスタン共和国における初等中等教育は現在11年制であるが、12年制に移行する準備が行われていた。2) 同国では、「Валеология(健康科学)」という学校健康教育教科が1998年に設立された。3) この教科の成立に主導的な役割を果たしたのが、National Center for Problems of Healthy Lifestyle Development であり、当時所長であった Adilhanov Almuhamed 氏であった。4) Валеология(健康科学)の教員はスポーツ大学、医科大学、教育大学で養成されている。5) 多数の教科に散在する学校健康教育に関連する内容を統合する形で「Здоровье и жизненные навыки(健康とライフスキル)」が2005年に開発された。同国の学校保健プログラム開発および学校健康教育の課題として、必要な教育内容の範囲(Scope)と、各年齢段階でどのように学ばせていくかの配列(Sequence)を明確にする作業が不可欠であることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：

The aim of this study is to clear trends and issues of development of school health education subject in the Republic of Kazakhstan for developing school health program around Aral Sea. We analyzed Валеология Программа, Здоровье и жизненные навыки Программе, and Государственный общеобязательный стандарт среднего общего образования Республики Казахстан for material and interviewed for Kazakh health authorities and policy makers. The main results were as follows: 1) Term of elementary and secondary education is currently 11 years. Preparation for change of it to 12 years is progressing. 2) The subject of school health education named "Валеология" was established in 1998 to cope with problems of students related to their health. 3) Dr. Adilhanov Almuhamed, then chief of National Center for Problems of Healthy Lifestyle Development mainly developed Валеология. 4) Валеология teachers are trained at universities of sports, medicine, and education. 5) Здоровье и жизненные навыки was established in 2005, through integrating scattered contents in various subjects related to health. It is thought that the subject of school health education in the Republic of Kazakhstan has to reveal scope and sequence of its contents in developing its curriculum. Moreover, this process should be carried out adding not only school teachers but some professionals regarding pediatrics, hygiene, and pedagogy.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：公衆衛生学・健康科学

科研費の分科・細目：国際保健学

キーワード：カザフスタン共和国，学校保健プログラム，健康教育

1. 研究開始当初の背景

カザフスタンおよびウズベキスタン共和国に位置するアラル海は、旧ソ連時代の大規模灌漑農業政策の失敗によって大規模な環境破壊が生じた。湖面積は50%以上減少し、湖周辺の生態系も大きく崩壊したことから20世紀最大の環境破壊とも言われている。

こうした環境変化に伴って、アラル海周辺住民に「エコロジカルディゼーズ (Ecological Disease)」と総称される様々な健康障害が報告されるようになった。

アラル海周辺住民の生活状況に関する報告や健康被害の実態とその要因の解明を目的とした疫学研究では、同地域の児童は他地域の児童と比較し、呼吸器障害や貧血、高カルシウム尿症の頻度が有意に高いことが報告されていた。

1986年のヘルスプロモーションに関するオタワ憲章以来、健康問題の改善に対して保健医療分野を超えた包括的な取り組みが必要であるとの認識が国際保健関係者の中に広がっている。特に、児童を対象とした健康対策を講じる際、保健師の数よりも学校の教員の数がはるかに多いことから、「保健」と「教育」とが一体となって活動する学校保健プログラムが費用対効果の高い手段の一つとされ、アフリカや東南アジアの一部地域で実施されている。

学校保健プログラムとは、「学校保健事業」、「健康的学校生活」、「学校健康教育」の3つの領域で構成され、児童に対して、精神的・身体的・社会的・文化的健康を学校において提供する、学校を中心とした包括的な取り組みである。

カザフスタン共和国においても、1991年の独立から十数年経過したが、前述のような包括的な取り組みは行われておらず、教育課程、とりわけ学校健康教育についての評価はまだほとんど行われていない。このことから、同地域で活動する医療・教育関係者から、本

研究課題の取り組みが強く望まれていた。

2. 研究の目的

カザフスタン共和国アラル海周辺地域における学校保健プログラム開発のための第一歩として、学校保健プログラムの中心である学校健康教育の現状について把握するために、学校健康教育に関する教科の開発の動向とその課題を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

研究1：カザフスタン共和国における学校健康教育の現状については、学校健康教育教科「健康科学」、「健康とライフスキル」、カザフスタン共和国中等普通教育の国家義務基準を中心に分析した。

研究2：カザフスタン共和国における教育制度および学校健康教育の歴史的経過と動向について、政府機関関係者からインタビューを行った。具体的には、教育制度については、カザフスタン共和国の教育制度の研究と学校教育機関のカリキュラムの認可を行う Kazakh Academy of Education named after Altinsarin にて、所長および副所長に対してインタビューを行った。学校健康教育については、教科成立で中心的な役割を果たした National Center for Problems of Healthy Lifestyle Development において、所長、副所長、前所長に対してインタビューを行った。

研究3：学校健康教育教科担当教員の養成状況について、Kazakh National Pedagogical University named after Abay, Kazakh State Woman Pedagogical Institute, Kazakh Academy of Sports and Tourism において、養成担当学科の主任に対してインタビューを行った。

4. 研究成果

カザフスタン共和国の教育制度は、初等中等教育が11年制(4・5・2年制)であり、基本的にはこの11年間を同一の学校の中で過ごす。教育課程は、国が定める課程、州や市が定める課程で分けられ、主要部分は必修教科として国が定める課程で占められる。これに対して各州が定める課程は各州の実情によって独自に定めるため、必修でも選択でよいとされ、地方独自の教育課程編成が行われている。

同国では、2004年の大統領教書演説で提示された「競争力のあるカザフスタン、競争力のある民族へ」という目標に従い、教育の質の向上、新しい経済的、社会文化的条件においてカザフスタンの教育システムの課題の戦略的な解決を目指すため、「カザフスタン共和国教育発展国家プログラム」が、2005年から2010年までの期限付きで施行された。このプログラムには、ヨーロッパにおける雇用可能性と移動性を高め、ヨーロッパの高等教育の競争力を強化し、「ヨーロッパ高等教育圏」を作るための「ボローニャ宣言」に加盟する目的も含まれていた。

しかしながら、2010年が「カザフスタン共和国教育発展国家プログラム」の当初の期限であったにも関わらず、現在のところ予定通りに遂行されていないのが現状であった。特に、就学前教育機関数の不足や教師不足の問題は未解決のままとなっていた。

現在同国は教育制度改革が行われており、ここ数年のうちに初等中等教育を11年制から12年制に変更することに加えて、児童生徒の健康面にも考慮して、必修・選択教科に関わらず、増え過ぎた教育内容の削減が検討されていた。これらは2008年までに実施される予定であったが、教員養成、カリキュラム開発、教科書印刷等調整が間に合わなかった。現在は2011年を目標に、12年制に移行するための準備が進められていた。

学校健康教育教科「健康科学」の教育内容初等中等教育において健康に関する教科「健康科学」が、1998年に選択教科として誕生した。本教科は、「健康についての科学であり、独立した分野、知識、実践に関する複合的な教科」とされる。

この教科の目標は、自己の健康状態を把握する能力の育成、児童の医療・衛生知識の向上、病気・傷害・中毒・近眼や姿勢の不調、様々な伝染病の予防を促すことと規定されている。この教科は教育制度の中で選択教科として位置づけられ、第1学年から第11学年までの全ての学年で週1単位時間(45分)が基準となっていた。

具体的な教科の課題は①健康な生活様式についての科学的な世界観の形成、②健康な生活様式への刺激、③学習者の身体的特徴の

向上、④健康な生活様式のための衛生習慣(知識)の学習、⑤伝染病の予防、⑥「健康は社会の財産」という自覚を持ち、自分の健康に対して責任を持つ意識の教育、⑦タバコ、アルコール、薬物に対する否定的な態度の教育であった。

「健康科学」に関して指針を示した学習指導要領から、教育内容を大別すると、①人体の構造と機能、②生活リズムと健康、③栄養・食事と健康、④こころの健康(感情のコントロール)、⑤環境と健康、⑥外傷と感染症、⑦運動・スポーツと健康、⑧性の発達・道徳と性感染症、⑨薬物と健康の9分野で構成されていた。

教育内容は学年が上がるに従い高度になるように配慮されていた。

この教科の成立に主導的な役割を果たしたのが、National Center for Problems of Healthy Lifestyle Developmentであり、当時所長であったAdilhanov Almuhammed氏であった。このAdilhanov氏は、1937年生まれ(外科医、医学博士)で、オムスク国立医科大学を1961年に卒業し、その後アスタナとジェズガズガンで健康福祉部長を務めた後、同センターの所長を歴任した人物であった。

当時の未成年には、アルコール、タバコ、ドラッグに加え、感情のコントロールが大きな健康問題となっていた。こうしたことを背景にして、現場の教師から、年齢によって直面する健康問題は異なるが、それぞれにうまく対応するには、1つのシステム、すなわち健康に関する教科が成立している必要があるという声が学校現場を中心に大きくなってきた。

同氏らは、こうした生徒の健康問題の改善のために、1994年から当時の教育科学大臣らと連携を取りながら、健康な生活様式に関する2冊の教科書を執筆した。

1995年と1996年に「健康科学教育」実施校と非実施校との間で比較調査が実施された。調査対象はアルマティ州、南カザフスタン州、パプロダル州にある12校であった。分析の結果、実施校でう歯、呼吸器疾患、消化器疾患、外傷、妊娠、喫煙、飲酒、麻薬の項目で発生率が非実施校と比較して低くなった。この調査結果が教育科学省に認められ、1997年に同教科を各学校で実施するよう大統領令が出されることとなった。これにより、1998年9月から、初等中等教育のすべての学校で「健康科学」が選択教科として実施されるようになった。

現在、同教科の教科書は、第1学年、第2～4学年、第5～6学年、第7～8学年用のものが完成しているが、今までのところ第9～11学年用の教科書は予算の問題で出版されていなかった。教師用指導書も同様に第9～11学年用は出版されていなかった。また、

同教科は選択教科ということもあって、地域の事情によってその実施状況は異なっていた。

教科「健康科学」を担当する教員の養成は、同国内のスポーツ大学、医科大学および教育大学で行われていた。例えば、Kazakh Academy of Sports and Tourism では、副専攻という形で「健康科学」教育が行われていた。また Kazakh National Pedagogical University named after Abay など、カザフスタンに存在する教員養成系大学や生物学部を設置している大学では同教科を担当する教員の養成が行われていた。

大学における同教科を担当する教員の養成カリキュラムは「健康科学」を設置する大学それぞれが作成し、それらについてコンペティションを行い、最も優れた大学のカリキュラムが基準とされた。教員免許は、卒業試験の合格とともに交付される。

また、教育科学省から予算が出され、現職教員の再教育も行われていた。そこでは、生物を担当する教員や医師が再教育の後に資格を取得するケースが多かった。

教育課程改革の影響を受けて、いずれの教科においても教育内容の精選が課題となっていた。健康に関する内容を扱う教科は、「健康科学」の他に、教科として「世界認識」、「生物」、「体育」、特別活動として「生活の安全」、「交通安全」、「エイズ問題と予防」、「アルコール、タバコ、麻薬乱用予防プログラム」がある。これらの重複する内容については、学習者の健康に関する教科への興味を低下させるとともに、現場の教師からも『健康科学』は何を教える教科なのか」という声が聞かれ、教育現場に混乱を招いていた。

このような状況を受けて、National Center for Problems of Healthy Lifestyle Development では、前述の教科、特別活動に散在する健康に関する内容を統合した「健康とライフスキル」を開発した。

「健康とライフスキル」は、前述の教科および特別活動の内容を統合したもので、週に1単位時間(45分)が基準となっていた。健康な生活意識の形成、様々な状況下において自己を守る習慣の形成を目的としており、科学性及びわかり易さ、教育の体系性と連続性、論理性、生徒の年齢・特徴の考慮を基本原則としていた。

なお、同教科の目標は13分野で構成されていた。具体的には、①健康な生活様式への動機づけ、②健康な生活を送るための衛生習慣(知識)学習、③自分の健康に対する責任を持つ態度の育成、④生殖機能維持と家族計画に対する知識の形成、⑤タバコ、アルコール、麻薬に対する否定的態度の育成、⑥生活に必要な技能、精神衛生を保つ技能の形成、⑦さまざまな緊急事態での救急処置技能の

教育、⑧環境保護に関する知識、遺伝学の知識の形成、⑨暴力、宗教的極論、テロリズムに対立する意識の形成、⑩人間関係及びコミュニケーションの技術の習得、⑪道路交通上の規則を守る習慣の形成、⑫専門家が選択した各種技能の形成、⑬ジェンダーギャップを克服する技能の形成の13分野であった。

教育内容は前述の教育目標に基づいて14項目が設定されていた。

同教科は2005年から2007年にかけてパイロット研究が実施された。この研究では、アルマティ州、南カザフスタン州の計10校で行われ、教科教育のための研修を受けた教師らが担当した。教育前と比較して教育後に、健康に関する知識や技能についての正答率が上昇した。

このようなパイロット研究の結果によって、同国政府は今後も「健康とライフスキル」を導入する校数を増やす意向であった。なお、この教科は現在第9、10、11学年用の教科書しか作成されていなかった。

本研究の結果から、同国の学校健康教育教科、および学校保健プログラムの開発の課題としては、必要な教育内容の範囲(Scope)と、各年齢段階でどのように学ばせていくかの配列(Sequence)を明確にする作業が不可欠であることが明らかとなった。この作業には、教師だけでなく、小児科学、公衆衛生学、教授学等を専門とする研究者が加わる必要があることを指摘した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- 1) 齋藤 篤, 扇原 淳, Sholpan E. Karzhaubayeva, Saule A. Dikanbaeva: カザフスタン共和国における学校健康教育教科開発の動向と課題. 幼少児健康教育研究, 17(1): 43-54 (2011)

[学会発表] (計9件)

- 1) 齋藤 篤, 扇原 淳, 小島友里, Karzhaubayeva Sholpan, Tulevayev Kazbec: カザフスタン共和国における学校健康教育プログラム開発に関する研究. 国際保健医療, 24: 139 (2009)
- 2) 小島友里, 扇原 淳, 齋藤 篤, Sholpan Karzhaubayeva, Kazbec Tulevayev: カザフスタン共和国における学校健康教育科目開発の動向と課題. 日本公衆衛生雑誌, 56(10): 644 (2009)
- 3) Огихара А: Система образования японий. высшие учебные заведения и задачи, стоящие передними, Совершенствование качества высшего

образования в свете Болонского процесса: реалий, проблемы и перспективы: реалий, проблемы и перспективы: Материалы XXXIX научно-методической конференций профессорско-преподавательского состава КазНУ им. аль-Фараби, pp.55-57, Almaty, Republic of Kazakhstan (2009)

- 4) Огихара А: Базовое изучение вопросов по внесению казахстанского школьного предмета по воспитанию ЗОЖ в число обязательных дисциплин. International Conference on Formation of a Healthy Lifestyle-the main strategy of Kazakhstan, Almaty, Republic of Kazakhstan (2009)
- 5) Saito A, Ogihara A: Trend and Issues on School Health Education in the Republic of Kazakhstan, Second Central Eurasian Studies Society Regional Conference, Ankara, Turkey, July (2010)
- 6) Saito A, Ogihara A: Expectation and Possibility of Modern Health Issues and School-based Health Education in the Republic of Kazakhstan, Central Eurasian Studies Society 11th Annual Conference, Michigan, USA (2010)
- 7) 齋藤 篤, 扇原 淳, Karzhaubayeva Sholpan, Dikanbaeva Saule: カザフスタン共和国における学校健康教育科目開発の動向と課題(第2報). 日本公衆衛生雑誌, 57(10): 563 (2010)
- 8) Ogihara A, Saito A: Importance of School Health Education in the Republic of Kazakhstan from the Viewpoint of Human Development Index (MDI) and Its Actual Condition, Central Eurasian Studies Society 12th Annual Conference, Ohio, USA (2011)
- 9) 齋藤 篤, 扇原 淳, Karzhaubayeva Sholpan, Dikanbaeva Saule: カザフスタン共和国における学校健康教育科目「健康と生活習慣」開発の動向. 日本衛生学雑誌, 66(2): 442(2011)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

扇原 淳 (OGIHARA ATSUSHI)

早稲田大学・人間科学学術院・准教授

研究者番号 : 20329072